

「環境・社会報告書2012」を
発行しました!

当社の企業姿勢や活動内容をありのままに伝え、多くの方々にご理解いただくことを目的に、「環境・社会報告書2012」を発行しました。2006年の初版発行から7回目となる今回は、具体的な実例を交えながら、環境に優しい製品づくりや環境負荷の軽減、事業活動を通じた社会貢献について報告しています。ぜひご一読ください。

「特集」 「TOPICS」では、事業活動を通じた社会貢献の具体例をご紹介します



本報告書の閲覧・ダウンロードは、こちら! www.furuno.co.jp ▶ 企業情報 ▶ 環境活動 ▶ 環境・社会報告書

株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	株主名簿管理人および特別口座の口座管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年5月開催	同 連 絡 先 (お 問 い 合 わ せ 先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-288-324 (ご利用時間: 土・日・休日を除く 9:00 ~ 17:00)
基準日		お 取 扱 窓 口	お取引の証券会社 (特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店)
定時株主総会	毎年2月末日	特別口座管理機関お取扱店	みずほインベスターズ証券およびみずほ信託銀行
期末配当金	毎年2月末日	未 払 配 当 金 の お 支 払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほインベスターズ証券では取次のみとなります)
中間配当金	毎年8月31日		
その他、必要がある場合はあらかじめ公告いたします。			
公告の方法	電子公告 (http://www.furuno.co.jp)		
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。			
単元株式数	100株		
上場金融商品取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第一部		



表紙絵画: 須磨はじめ
マリンギアライター。自ら描く
著書の挿絵から水彩画の世界
へ。プレジャーボートを素材に
した作品が多い。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用
しています。



古野電気株式会社
<http://www.furuno.com>

第62期 第2四半期

株主通信

2012年3月1日~2012年8月31日

証券コード 6814



運河の街 (オランダ・アムステルダム)

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第62期 第2四半期(2012年3月1日から2012年8月31日まで)が終了いたしましたので、その事業概況についてご報告いたします。

世界経済の停滞が続く中であって 日本経済の回復機運は高まっています

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、全体的に停滞傾向が続きました。米国では、生産活動や雇用情勢が緩やかながら活性化されたものの、個人消費の勢いは弱まり、設備投資も大きく減少するなど、先行きに懸念が残ります。欧州では南欧諸国の大幅なマイナス成長に加えて好調を維持していたドイツの景気にも減速感が強まり、ユーロ圏全体で景気の後退が進みました。アジア経済においても輸出の伸び悩みなどが影響し、中国をはじめ多くの国で経済成長のペースが鈍化しています。反面わが国の経済は、東日本大震災の復興需要による公共投資の増加もあり、生産・雇用情勢、個人消費のいずれも堅調に推移し、景気には緩やかな回復傾向が見られました。

当社グループの主要なマーケットである船用事業の分野では、商船市場における新船建造、リプレース(換装)ともに需要の停滞傾向が続き、プレジャーボート市場も小型艇など一部で需要の回復傾向がみられたものの、当社グループの主要な販売対象である中大型艇は欧州景気低迷などの影響を受け、需要が伸び悩みました。当該期間の米ドルおよびユーロの平均為替レートは、それぞれ79円および103円で、前年同期に比べて米ドルは約4%、ユーロは約10%の円高水準で推移しました。

コスト低減や販売拡大に取り組むも 厳しい市況を反映した結果となりました

円高が進む状況下で、当社グループはコスト低減や販売拡大に積極的に取り組みましたが、船用事業では、商船市場向けやプレジャーボート市場向けの売上が伸び悩みました。また産業用事業でも医療機器やGPS機器の売上が減少しました。

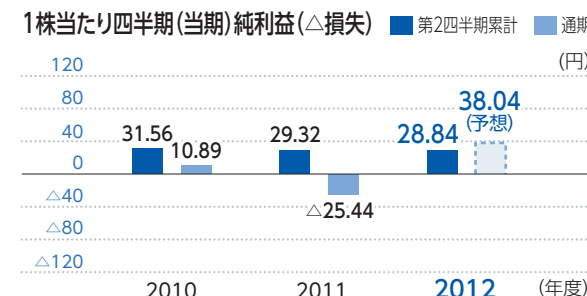
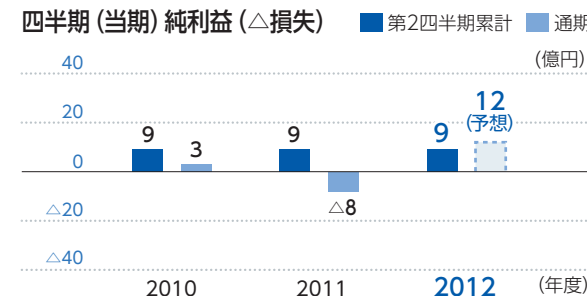
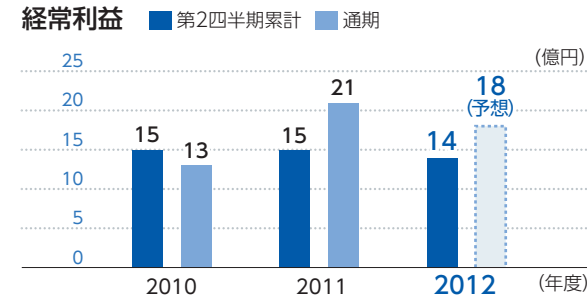
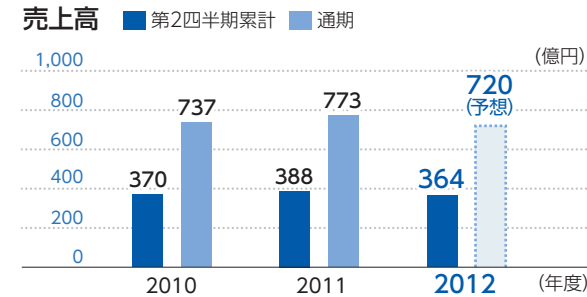
以上により、売上高は364億5,100万円と、前年同期を下回る結果となりました。販売費及び一般管理費は減少したものの、売上総利益の減少がこれを上回り、営業利益も10億9,800万円と前年同期を下回りました。一方、為替差損益の影響などにより営業外収支が改善されたため、経常利益は14億500万円(前年同期比9.2%減)、四半期純利益は9億900万円と前年同期を1.6%下回るとどまりました。

当期の中間配当につきましては、1株につき2円50銭とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年11月

代表取締役社長
古野 幸男



四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 2011年3月1日から 2011年8月31日まで	当第2四半期 2012年3月1日から 2012年8月31日まで
売上高	38,835	36,451
売上原価	26,113	24,448
売上総利益	12,721	12,002
販売費及び一般管理費	11,330	10,904
営業利益	1,391	1,098
経常利益	1,547	1,405
税金等調整前四半期純利益	1,154	1,216
四半期純利益	924	909

四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)

科目	前期末 2012年2月29日現在	当第2四半期末 2012年8月31日現在
流動資産	57,094	54,439
固定資産	16,488	16,680
資産合計	73,582	71,120
流動負債	27,739	26,148
固定負債	14,715	12,875
負債合計	42,454	39,024
純資産合計	31,127	32,095
負債及び純資産合計	73,582	71,120

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 2011年3月1日から 2011年8月31日まで	当第2四半期 2012年3月1日から 2012年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,116	1,440
投資活動によるキャッシュ・フロー	△982	△1,096
財務活動によるキャッシュ・フロー	△795	△1,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,288	10,914

※連結財務諸表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

海底から宇宙まで
FURUNO製品紹介

07

電子海図情報表示システム

最新技術で「使いやすさ」を徹底追求。
船舶の安全な航行に
大きな役割を果たしています。

電子海図情報表示システム (ECDIS) は、電子海図、レーダー、船位、方位、船速などの航海情報を表示し、船舶の安全な航行を支援するシステムです。2012年7月から、外航旅客船・貨物船などを対象に段階的にECDISの搭載義務化が始まり、より高機能で使いやすい製品を求める声が高まっています。このような顧客ニーズを受け、当社は先進のGUI*技術を用い、徹底的に「使いやすさ」を追求した最新機種を開発しました。加えてお客様の操作習熟を支援するため、世界8カ所の研修施設での船員教育サービスや、インターネット回線を用いた通信教育サービスも提供しています。

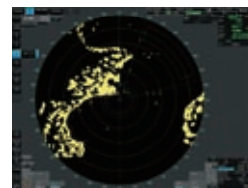
*GUI: グラフィカル・ユーザー・インターフェース



コニングディスプレイ



ECDIS



レーダー

電子海図情報表示システム FMD-3200/3300

今まで以上に直感的な状況把握や簡易な操作性を実現。航行監視やチャートメンテナンスなど必要な機能を素早く呼び出せるほか、超高速でのチャート描画や、スムーズなズームイン・画面スクロールなどが可能です。

船用事業

売上高 **294億3,800万円**

主な製品

- 航海機器
- 無線通信装置
- 漁労機器

14.1型マルチファンクションディスプレイ [TZT14]



- 商船市場向けの売上が中国などアジアで減少したことにより、市場全体でも減少しました。
- プレジャーボート市場向けは、為替レートで円高が進行したことなどにより、欧米市場を中心に売上が減少しました。
- 漁業市場向けは、国内市場が好調に推移したことなどにより、売上が増加しました。

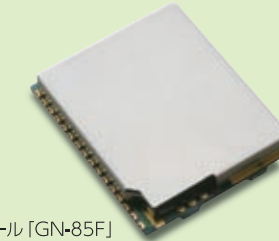
産業用事業

売上高 **54億1,100万円**

主な製品

- GPS関連機器
- 医療用機器
- ETC車載器

GPSモジュール [GN-85F]



- 医療用機器は、生化学分析装置などの売上が減少しました。
- GPS関連機器は、カーナビゲーションシステム搭載モジュールが低調で、売上が減少しました。
- ETC車載器も売上が伸び悩みました。

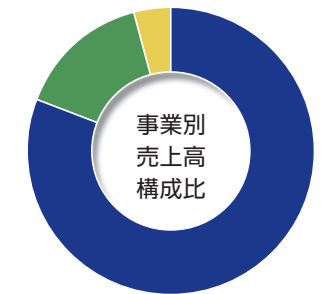
その他

売上高 **16億100万円**

主な製品

- 航空機用電子装置
- 無線ハンディターミナル
- 無線LAN機器

スタンドアロン型無線LAN
アクセスポイント [ACERA 800ST]



- 船用事業 81%
- 産業用事業 15%
- その他 4%

フルノ創業の地を訪ねて “船員のまち” 口之津からはじまった創造の歴史

長崎県・島原半島の南端に位置し、古くから多くの船が行き交う港町として栄えてきた口之津。創業者の古野清孝（現名誉会長）が、弟・清賢（現常任相談役）とともに事業の礎を築いた地に、当社の原点を訪ねます。

泡で魚が獲れないか—— まだ世にないものを生み出す挑戦

「泡の下には魚がいる」。この漁師の言葉にヒントを得て、24歳の若さで清孝は魚群探知機の開発にとりかかります。清孝が目をつけたのは、超音波の反響で海の深さを測る「音響測深機」。しかし当時は専門家の間でさえ、「ほとんど水分でできている魚は超音波を反射しない」というのが通説でした。そのような声にも負けず、清孝は測深機を改良。約1年の試行錯誤を経て、1947年、ついに世界初の魚群探知機が誕生します。



魚群探知機の販売が軌道に乗り始めた頃の古野電気工業所（1950年・長崎駅前）

「天然の良港」として知られる口之津は、1562年に戦国大名の有馬氏が貿易港として開港。以来、450年もの長い歴史に彩られた港町として現在に至ります。



「論より証拠」 疑心や無関心の壁を乗り越えて

その後も少しずつ改良を重ね、魚群探知機は魚量や魚種が区別できるまでに進化します。しかし、長年の経験と勘を頼りにしてきた漁師たちに「機械で魚を探す」という発想はなく、なかなか信用を得られません。「それならば、獲ってみるしかない」。体の弱かった清孝に代わり弟の清賢が船に乗りこみ、それまで漁獲量が最下位だった船に大漁を呼び寄せます。噂は瞬く間に広がり、次々と問い合わせが舞い込みました。こうして魚群探知機は全国へ、そして世界へと普及していくことになります。



25歳頃の清賢

創業から60年余りを経た現在も続く 口之津との交流

当社の登記上の本店所在地は、1980年まで口之津町（現南島原市）にありました。その後、本社を兵庫県西宮市に移した今も、口之津との交流は続いています。「口之津歴史民俗資料館・海の資料館」では当社紹介の常設展示を行っているほか、南島原市の小中学生を対象に科学・技術分野に関する研究発表の「古野賞科学技術展」表彰、古野清孝・名誉会長ならびに古野清賢・常任相談役が名誉市民に称せられています。

口之津歴史民俗資料館・海の資料館

長崎県南島原市口之津町甲16-7
Tel. 050-3381-5089

1899年（明治32年）に税関として建造された口之津町唯一の明治洋風建築は、1980年に国より払い下げを受け、室内を改修。先祖が遺した貴重な生活用品や生産用具など、5,800点にもぼる多くの歴史的遺産が展示されています。



「口之津開港450年記念事業」に協賛

今年、開港450年を迎えた口之津港では大小さまざまなイベントが開催されました。当社はこの「口之津開港450年記念事業」に協賛し、「港に関わる先人・企業展」（9月10日～23日）に出展。当社の創業期から現在までの歩みを紹介するとともに、最新機器を展示しました。また、9月22日～23日のメインイベント当日には、常任相談役の古野清賢も現地に赴き、来場された方々と歓談のひとときを過ごしました。



当社の展示ブースの様子。初期型の魚群探知機（左）や、船用および産業用の最新機器（右）を紹介しました。

日本全国の活火山監視に貢献 フルノの地殻変位計測システム

2000年3月に発生した有珠山の噴火において、的確な噴火予知と住民への避難指示に貢献したのが、フルノの地殻変位計測システム「DANA2000」です。このシステムに用いられているフルノのGPS技術は、さまざまな分野で人々の安全を支えています。

有珠山噴火の際には、数十カ所に配置されたGPS受信機が噴火直後のかすかな地殻変動をとらえ、溶岩流の進路の特定に役立ちました。

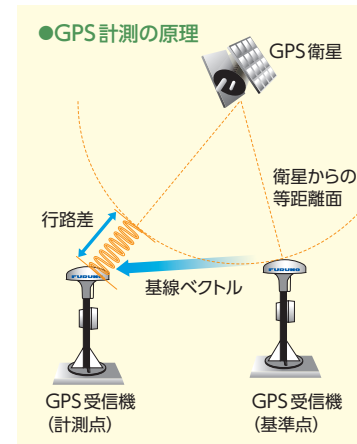


富士山や有珠山をはじめ、 全国約20カ所で火山活動を監視

日本には110の活火山があります。気象庁ではこのうち47火山(2012年9月現在)を常時観測火山として、大学などの研究機関や自治体、防災機関などと協力しながら、24時間体制で監視しています。「DANA2000」は、富士山や有珠山など、全国約20カ所の常時観測火山に設置されています。この中には近年活動を活発化している霧島山新燃岳も含まれており、設置台数を増やして観測が強化されています。

正確な位置情報を割り出す フルノの高度なGPS技術

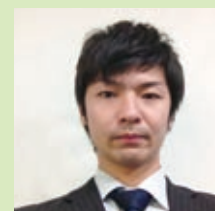
「DANA2000」は、地上に設置した複数のGPS受信機で衛星からの電波を同時に受信し、地殻変位を計測します。電波を用いるこの方式は、上空の電離層や水蒸気の影響を受ける点が課題でしたが、国内でもいち早くGPSセンサーの開発に取り組んできたフルノは、20年余りをかけて培った技術を集大成し、それらを克服するアプリケーションを開発しました。微小な誤差要因を取り除くことで、ミリ単位での計測を可能にしています。



2つの受信機から衛星までの行路差(距離の差)をもとに基線ベクトル(2点間の距離と方位)を決定。「地面が動く=機器の位置が動く」ことから、基線ベクトルの変位を「地面のずれ」として解析します。

地すべりの監視など 多方面への応用に期待

火山観測で実証した性能が評価され、「DANA2000」は近年、地すべりの監視にも活用されています。地すべりは、これまで人による巡回でしか危険を察知する方法がなく、全国のすべての危険箇所を常に監視することは困難でした。無人監視で正確な情報を得られる「DANA2000」は、土砂災害から人々の生命や財産を守る有効な手段として注目を集めています。さらに、鉄道や防波堤など巨大建築物の維持管理にも活用の幅が広がっています。



DANA2000 営業担当
原田恭兵

営業担当者からのメッセージ

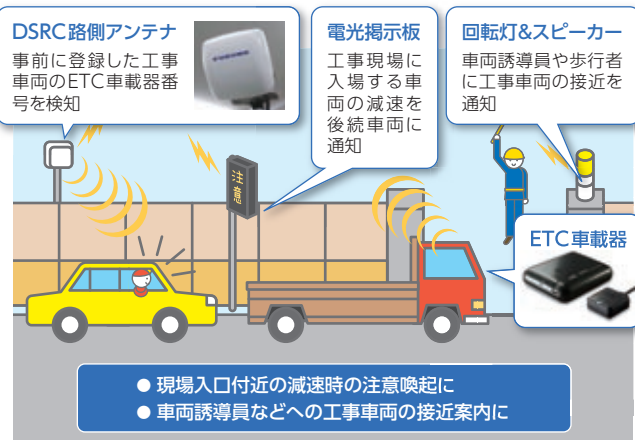
近年、度重なる自然災害に国民全体の安全意識が高まる中、「DANA2000」も安全管理における有効な手段の一つとして注目され、着実に普及しています。今後もフルノは、数々の現場で蓄積したノウハウと技術力を活用し、皆様の安全・安心に貢献するソリューションを提供し続けたいと考えています。

ETCによる車両事故防止&運行管理システムを開発

古野電気と五洋建設株式会社は、ETC車載器を利用した「ETC車両事故防止システム」と「ETC車両運行管理システム」を開発し、工事現場に初めて導入しました。今後は五洋建設の工事現場での検証をさらに進め、機能強化とシステムの普及に取り組みます。

ETC車両事故防止システム

工事現場の近くに設置したDSRC路側アンテナがETC車載器を搭載した工事車両を検知し、一般車両や通行者への注意喚起と、車両誘導員への通知を自動で行います。夜間や雨天時など視認性が低下した際にも、工事車両の接近をいち早く確実に知らせることが可能です。



ETC車両運行管理システム

工事現場のゲートにDSRC路側アンテナを設置することで、ETC車載器を搭載した車両が退出する際に、日時や車両番号などを自動で記録します。従来は現場の作業員が行っていた業務を自動化することで、省力化や運行管理の精度向上、集計時間の短縮などが期待されます。



※本システムは、国土交通省の「新技術情報提供システム：NETIS」にも登録されています。

フルノシステムズが「エアサイネージ」を開発

近年、スマートフォンやタブレット端末などの普及が急速に進んでいますが、ショッピングモールやイベント会場、ホテルなどでは、インフラ整備が遅れているのが現状です。そこで、当社グループの株式会社フルノシステムズは、インターネット回線に接続せずにスマートフォンなどの端末にコンテンツを配信できる技術「エアサイネージ」を開発し、販売を開始しました。いつでも、どこでもつながる無線ネットワークの世界を広げていくことができる技術として、多くのお客様に活用いただけるものと期待しています。



エアサイネージサーバから半径約30~100m以内が無線LANエリアとなり、スマートフォンなどからアクセスしてコンテンツを閲覧できます。

株式の概況/会社の概況

株式の状況 (2012年8月31日現在)

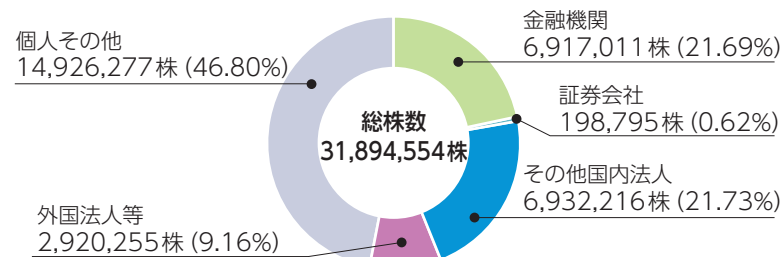
発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	31,894,554株
株主数	5,431名

大株主の状況 (2012年8月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
古野興産株式会社	4,697	14.89
古野電気取引先持株会	1,036	3.28
第一生命保険株式会社	1,000	3.17
株式会社三菱東京UFJ銀行	992	3.15
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	942	2.99
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	732	2.32
CREDIT SUISSE(LUXEMBOURG)S.A. ON BEHALF OF CLIENTS	600	1.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	582	1.85
エコ興産有限公司	560	1.78
SIX SIS LTD.	555	1.76

※持株比率は、自己株式350,474株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (2012年8月31日現在)



※個人その他には、自己株式350,474株(1.10%)を含んでおります。

会社概要 (2012年8月31日現在)

社名	古野電気株式会社
英文	FURUNO ELECTRIC CO., LTD.
設立年月日	1951年(昭和26年)5月23日
本社所在地	〒662-8580 兵庫県西宮市芦原町9番52号
電話番号	0798-65-2111(代表)
資本金	7,534百万円
主な事業	船用電子機器および産業用電子機器などの製造販売
従業員数	2,885名(連結) 1,717名(個別)
生産/研究開発拠点	三木工場・フルノINTセンター(西宮浜)・西宮事業所
国内販売拠点	兵庫・北海道・青森・宮城・千葉・東京・石川・静岡・愛知・三重・和歌山・鳥取・広島・山口・徳島・愛媛・高知・福岡・長崎・宮崎・鹿児島・沖縄
海外拠点	アメリカ・デンマーク・フィンランド・ギリシャ・オランダ・スペイン・フランス・イギリス・ノルウェー・ロシア・スウェーデン・ポーランド・ドイツ・中国・シンガポール

役員 (2012年8月31日現在)

代表取締役社長	古野 幸男
専務取締役	森 博行
常務取締役	小池 宗之
常務取締役	井澤 亮三
取締役	和田 豊
取締役	石原 眞次
取締役	矮松 一磨
取締役	岡本 達行
取締役	西森 靖
取締役	大矢 智資
常勤監査役	坂井 讓
社外監査役	吉本 健一
社外監査役	小美野 廣行